

- ・今年のさくらんぼを振り返り、来年の準備をしよう！
- ・良い花芽を作るために、適切な夏季管理をしよう！

1. 今年産のさくらんぼを振り返る

- 庄内地域では、軽度の降霜が高頻度で発生したが、防霜対策や人工受粉の徹底により、結実は園地によるバラつきはみられたものの、概ね平年並を確保できた。
- 一方で、開花期間が長かったことによる熟度のバラつき、6月3半旬頃の日照不足による「佐藤錦」の着色遅れ、高温等の影響による「佐藤錦」の早期軟化が課題となった。

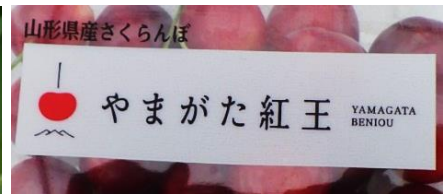
➔ **自園地の状況を振り返り、次年度に向けた対策を検討しよう！**

①結実が少なかった人…【結実確保対策】！

- 防霜対策の実施：燃焼法・散水氷結法・防霜ファンなど
・散水氷結法は氷結後も翌朝まで散水し続けることが重要！
- 受粉樹の導入：開花期の合う受粉樹の導入
・「紅秀峰」は摘芽するため受粉樹としての役割が少ないことに注意！

②着色遅れ、軟化に悩まされた人…【高品質果実生産対策】！

- 明るい園地づくり・土壌改良：来年の花芽を充実させ、品質向上
・縮間伐、夏季剪定（強勢樹）を実施して光環境を改善。病害虫にも強い！
- 作業スケジュールの見直し：受粉、摘果、摘葉、収穫…
・摘果が遅れて成らせ過ぎ→着色不良、収穫開始の遅れ→果肉軟化
- 品種構成の見直し：労力も含め、「佐藤錦」に偏りすぎていませんか？
・硬肉系の「紅秀峰」、「やまがた紅王」の増殖を検討。軟化もしにくい！



「やまがた紅王」

2. 今後の管理について ～来年に向けて～

(1) かん水・基肥

○**高温が続いています！土が乾いている園地では、積極的にかん水！**

- ・幼木は特に注意！→根域が浅く、弱りやすい。敷きわらやマルチも活用し土壤水分保持！

○**基肥は、根が活動している9月上旬～中旬に施用**

- ・貯蔵養分を十分に蓄えさせ、来年に備える。弱勢樹には完熟堆肥を使い、根張り強化！

(2) 病虫害防除の徹底

- ハダニ類 ⇒ 発生が多い園地あり！今年は極度の高温・乾燥状態のため、注意！
 - ・発生に応じ追加防除。高温乾燥時は頻繁に草刈りせず、刈る場合は高刈り！
- 樹脂細菌病 ⇒ 秋防除を必ず2回以上実施！**(9月、11月)**
 - ・難防除枝幹病害です。感染防止のために必ず散布！

農薬散布は総使用回数、希釈倍率等を必ず確認！

(3) 縮間伐・夏季剪定 (光環境の改善)

① 改善が必要かどうか、園地や樹の状況を確認しましょう！

○隣同士の樹の枝が重なっている ⇒ 縮間伐

- 「永久樹 (優先する樹)」を決定し、
そうでない樹を縮間伐する。
- ・受粉樹が不足しないよう注意。品種構成も考えて。
- ・「佐藤錦」が連続し、結実が安定しない樹は
優先して間伐する！



隣接する「佐藤錦」が重なっている事例

○樹勢が強く樹冠内部が暗い ⇒ 夏季剪定

- 暗い原因になっている樹冠内部の枝を間引く。
- ・冬季の剪定で強剪定になるような大枝が対象。
- ・新梢は切除しない。

【夏季剪定の注意点】(必須作業ではありません！)

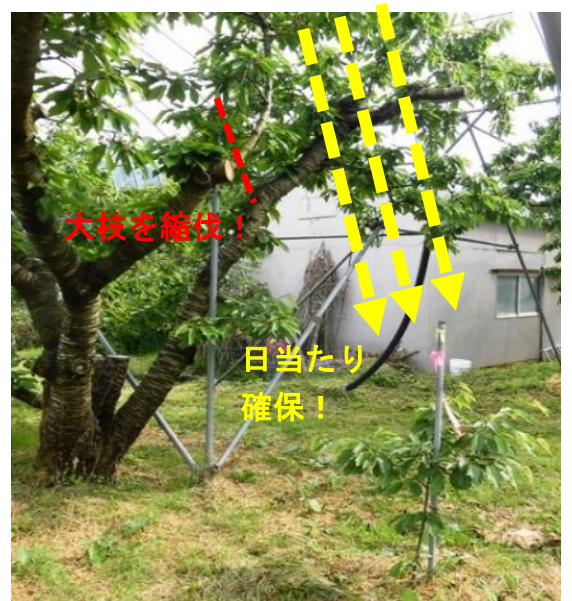
- ・**樹勢が適正な樹、弱い樹、十分明るい樹・園地では行わない！**
- ・剪定は最小限に！ノコギリを主体とした間引き中心の大枝整理のみとする。※切りすぎ注意
- ・高温期は主枝背面の日焼け、双子果発生を助長する可能性があるため8月下旬以降に行う。

② 成木の隣に苗木を定植している場合

- 成木の縮間伐を必ず行いましょう。
- ・苗木に被さっている大枝を縮伐 (右図)

「やまがた紅王」などの苗木を
成木の樹冠下に植えていませんか？
※日当たりが確保できているか要確認！

- ※そのままにしておくと、樹冠拡大が遅れ、
収量が確保できません。
- ※「やまがた紅王」は、「佐藤錦」より強い樹勢の
維持が必須です。



★暑い日が続いています！水分補給やこまめな休憩で「熱中症」を予防しましょう。

お問い合わせは最寄りの農協、農業技術普及課へ